

【フロンティアスクール用中間報告】

(都道府県 大阪府)

．学校の概要（平成15年4月現在 ）

大阪市立花乃井中学校（フロンティアスクール名）										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	3	4	4				3	14	30	
生徒数	117	144	158				(9)	428		

．実践研究の概要

1．主題（テーマ）

学校文化が生み出す学習環境による確かな学力への道
 教科学習環境改善を目指して

2．内容と方法

(1) 実施学年・教科

- (1) 絶対評価の実施
- ・各教科について、通知票の表記と連動する評価項目及び到達度基準表を作成した。
 - ・学習到達度を明らかにし、自己の学習状況を把握し、次の学習に生かすことをねらいとする。
- (2) 2学期制の実施
- ・メリット、デメリットについて検討し、デメリットについての方策を講じてメリットを生かしつつ2学期制を導入した。
 - ・生徒のゆとり、教師のゆとりを生み出し、生徒の学力向上に通じる環境が生み出せた。
- (3) 少人数授業の実施
- 数学科（1年生）（理解度に差が出やすい教科、学年であるため）
- ・全期間、1学級を出席番号で単純に2分割し、一部期間で、1学級を基本・標準・発展の3つの習熟度によって3分割し、少人数授業を実施した。
- 理科（2年生前期）（電流等この時期に具象的な内容から抽象性の高い内容になっていくため）
- ・前期に、1学級を出席番号で単純に2分割し少人数授業を実施した。
- 社会（1年生後期）（世界に対象が広がり理解度に差がでやすいため）
- ・後期に、1学級を出席番号で単純に2分割し少人数授業を実施した。

(4) 教育相談、自主学習、読書活動の実施

- ・水、金曜日の5限終了後、教育相談、自主学習を実施し、教育相談においては生徒の悩みに対応するとともに、個に応じた学習方法をマンツーマンで指導し、また、自主学習の時間においてはつまずきのある生徒を抽出し、基礎基本の定着の徹底を図った。
- ・集会のない日の朝の短学活で読書活動を行い、読書の習慣の定着を図った。

(5) 学力向上の学校文化構築

- ・学校全体の学力向上雰囲気醸成として、学習の関心・意欲を喚起させる次に掲げる各種「検定」を紹介し、参加の便を図った。「英検」・「漢検」・「歴史能力検定」・「地理検定(教師自作)」の各種検定である

(2) 年次計画

平成
14
年
度

- (1) 学力向上フロンティア事業の共通理解と研究計画の策定
- (2) 家庭での読書習慣、自学自習の習慣の実態調査
- (3) 授業の実践と改善、まとめ
- (4) 実践成果の各教科検定テストによる判定

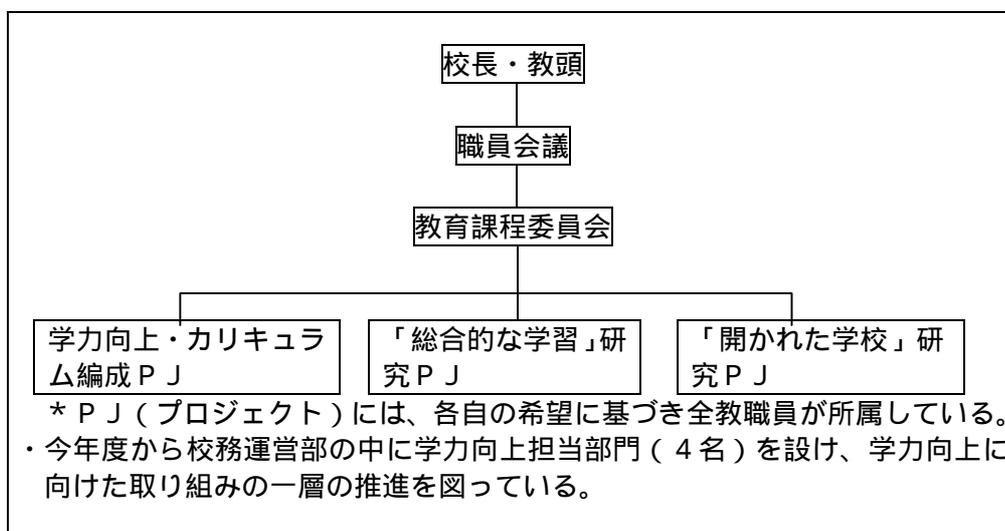
平成
15
年
度

- (1) 1年次の課題への対応
- (2) 学校文化としての教科学習環境の向上構築(2学期制等)
- (3) 家庭での、自学自習を含めた生活習慣の実態調査
- (4) 授業の実践と改善、まとめ(分割授業等)
- (5) 実践成果の各教科診断テストによる判定

平成
16
年
度

- (1) 第2年次の課題への対応
- (2) 学校文化としての教科学習環境の向上構築
- (3) 家庭での、自学自習を含めた生活習慣の実態調査への対応
- (4) 授業の実践と改善、まとめ(分割授業等)
- (5) 実践成果の各教科診断テストによる判定
- (6) 研究のまとめと刊行

(3)研究体制



・平成15年度の成果及び課題

成果

本校のテーマが 学校文化が生み出す学習環境による確かな学力への道（教科学習環境改善を目指して）とあるように、幅広い取り組みにより、総合的に全体としての学力向上を目指している。従って具体的に数量化できない部分を多く含みそれは、生涯に渡る「確かな学力」へ生徒の学習が胎動し始めたか、というような観察も含んだ評価にならざるを得ない。ここでは、具体的な面についてのみ触れる。

・少人数授業

1年数学においては、単純2分割と、短期間の習熟度別授業（基本・標準・発展の3グループ）実施することにより一定の成果を上げている。2年理科、1年社会は単純2分割のみであるがその有効性も明らかである。

・各種検定テスト

参加人数の増加や、難度の高いものへのチャレンジ等学習意欲向上の一助になっている。

課題

- ・ 少人数授業をさらに改善する。特に、2学級3展開等新しい形態、は本校の習熟度別授業の核として今後の研究を待ちたい。
- ・ 絶対評価においては、到達度による評価を模索しているがこのことが、学力向上に結びついていく方策を検討
- ・ 2学期制を今年度から実施したが、その改善を図る必要がある。
- ・ 教育相談、自主学習活動、読書活動等を生活実態調査と連動させながら一層充実させる必要がある。

・学力把握のための学校の取組について

(例：定期的な学力調査の実施(年1回)等)

診断テストの実施(年1回)

- ・ 1, 2年生の5教科において診断テストを作成し、平成14年度、15年度の1月に実施している。
- ・ 上記テストでの工夫として、項目(分野)ごとに、目標に対してどの程度達成できているかを診断する目的でテスト問題を作成し、その結果はレーダーチャートに表して直視できるようにし、有効な活用をしている。

・フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ・平成15年12月に実施された「大阪市教育改革フォーラム」において、学力向上がメインテーマの第1分科会で本校の成果を発表した。(参加者、教員・保護者含めて500人程)
- ・本校では平成12年度より、教育実践課題に向けた本校での独自の取り組みを毎年刊行しているが、昨年度分は「花乃井中学校『大阪市教育改革プログラム』ハンドブック」として刊行し、全市中学校及び校下小学校に配布している。
平成15年度は「大阪市教育改革フォーラム」で発表した内容を中心に学力向上フロンティアスクールとしての成果をまとめているところである。
- ・学力向上フロンティアスクール事業の研究発表を平成16年11月に予定している。